

「誰も置いて行かない」

路上の若者ら15人が卒業式

自立支援事業

首都圏マニラ市を拠点に活動するフィリピンのストリートチルドレン支援団体「チャイルドホープ」の事務所で3月31日、技術教育技能開発局(TESDA)によるバリストや飲食店で働くための職業訓練など半年間のコースを終了した16〜24歳の若者ら15人(2022〜23年度2期生)が卒業式に臨んだ。同コースは、日本のNPO法人「アジア・コミュニケーション・センター21」(ACC21)が、チャイルドホープと連携し18年から実施してきた、路上で暮らす若者の自立支援事業「プロジェクト・バンブー」(タケノコ)の一環。

式では卒業生一人一日間の「生活技能」という人が名前を呼ばれ入場。コースを履修し証明書3枚を授与された。

チャイルドホープのハーバート・カルピオ事務局長は、フェイスブックライブ越しに日本から参加したACC21の伊藤道雄代表理事の祝福の言葉を代読。その上で「まず自前に拍手を」と卒業生を称え、「真剣に取り組むことで将来は変えられる。旅は始まったばかりだ」と激励した。



日本のACC21と連携しての路上で暮らす若者の自立支援事業「プロジェクト・バンブー」における職業訓練の22〜23年度2期生卒業式＝3月31日、首都圏マニラ市のチャイルドホープ事務所で岡田薫撮影

りで、この先の社会の方が重要だ。必要な時、私たちはいつでもここにいます」と寄り添う言葉を投げかけた。

卒業生代表のジェネシス・チドさん(21)は「この職業訓練に導いてくれた神」やチャイルドホープ、ACC21に感謝を表し、「全員で試験や実習に合格しよう。誰も置いて行かない」と路上から繋がってきた仲間らに呼びかけた。

▽子連れでの参加も

ディビソリアの路上でバーガーやキツキヤム(すり身魚の揚げ物)などを売るサリサリストアを持つというヘンドリア・バディリヤさん(23)は、もうじき4歳になる息子を連れて卒業式に出席。受講中も息子を連れて通った。現在も寝る場所は「路肩だが雨露をしのぐ屋根はある」と明かした。

ジュニアハイ(日本の中学1年)以降通学を諦め、雑貨店で働いて家計をやり繰りしていたという。チャイルドホープとの出会いは「9〜10歳のころ」。義父がトンド地区でミルクテイラーの露店を営むことから、「学んだ技術をそこで活かせたら」と希望を語った。

「海外就職の道も」
「バンブー」のプロジェクト責任者メルチョー・アマンテさんによると、同コースは新型コロナ禍でも場所を変え継続されてきた。今年度1期の卒業生は15人で、今回2期は当初20人だったが、仕事や学業で忙しくなり4人が抜けた。式出席者は15人で「急用で参加できなかった1人にも後日、卒業証明書を手渡す予定だ」という。

卒業生はこの先、TESDAによる料理に特化した国家資格2級を受けるとの予定であり、それがこのコースのエッセンスだという。アマンテさんは「資格取得によって国内だけではなく、飲食関係での海外就職への道も開ける」と利点を挙げた。

「プロジェクト・バンブー」の活動資金を支援してきたACC21は、アジアの開発途上国における貧しい子どもへの教育や保健医療の改善を目指し、現地の団体・機関などと連携してきた。代表理事の伊藤道雄さんは今年2月にチャイルドホープの同事務所や今回のコース会場だったマニラ市の「子ども博物館」を訪問し、進行具合の確認に加え、生徒一人一人と熱意を込めて言葉を交わしていた。(岡田薫)



フィリピン 大衆紙の話題

1カ月に同じ場所から遺体 西ネグロス州ムルシア町で3月31日、殺害された男性の遺体が、米袋の中から見つかった。ムルシア署によると、ヒューム管に遺棄されていた男性の遺体は裸で、すでに腐敗が進んでいた。今月初めには全く同じ場所で白骨遺体も見つかったという。警察は2つの殺人が同一人物による犯行が有力との見方で捜査を進めている一方、偶発的に同位置に遺棄された可能性も考えられるとしている。警察は2件の被害者の身元の特定を急いでいる。(4日・テンポ)

トップニュース(4日)
 >>司法相がテバス議員をデガモ事件の「黒幕」と認識 (ブレティン)
 >>大統領府が追加4施設の場所を公表 (スター)
 >>司法相がデガモ知事殺害でもう一人の黒幕を公表 (インクワイアラー)